

いな やま
稲山遺跡
発掘調査概報



平成12年度

青森市教育委員会

序

青森市教育委員会では、平成10、11年度に引き続き、今年度、東北縦貫自動車道八戸線建設事業に係わる稲山遺跡の発掘調査を実施いたしました。

調査の結果、縄文時代前期の竪穴式住居跡や土坑、縄文時代後期の配石遺構など各種の遺構が検出されるとともに、土器や石器等多量の遺物が出土いたしました。

本書は、これら調査成果について、写真図版等を多用した発掘調査概報としてまとめたものであります。本書が文化財の保護・活用、歴史学習等、研究者はもとより市民の皆様にとりまして、いささかでも役立つことができれば幸いと存じます。

調査の終始にわたる、調査員、関係機関並びに各位のご指導、地元町会からのご理解、ご協力に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成13年3月

青森市教育委員会
教育長 池田 敬

例言

目次

1. 本書は、青森市教育委員会が平成12年度に実施した東北縦貫自動車道八戸線(青森～青森)建設事業並びに高規格道路建設促進事業に係わる稲山遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 稲山遺跡発掘調査は、日本道路公団並びに青森市都市政策部の委託を受け実施した。
3. 稲山遺跡の遺跡番号は、01045である。
4. 本遺跡の発掘調査は、平成10、11年度も実施しており、今年度は第三次にあたる。これまでの調査成果については、「稲山遺跡発掘調査概報」、「稲山遺跡発掘調査概報」(青森市教育委員会1999、2000)として刊行しており、本書は、3冊目にあたる。
5. 発掘調査報告書は、第一次調査にあたる、平成10年度分については、今年度刊行予定であり、以後、年度ごとに刊行予定である。
6. 本書の編集・執筆は、調査担当者である小野貴之がおこなった。
7. 発掘調査の実施にあたって次の機関からご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表する。

序

例言

目次

はじめに.....	1
稲山遺跡の概要.....	1
今年度の調査から.....	2
縄文時代前期の様相.....	4
縄文時代後期の様相.....	8
まとめ.....	12

はじめに

日本道路公団では、青森市と八戸市とを結ぶ東北縦貫自動車道八戸線建設を計画し、その取り掛かりの事業として青森市の東西を結ぶ青森～青森間16キロの路線建設に着手することとなりました。しかし、建設予定地内には、熊沢、安田(2)、三内丸山(6)、栄山(3)、岩渡小谷(2)～(4)、稲山等複数の遺跡が所在していました。そこで、道路建設に先立ちこれらの遺跡では、記録保存のための発掘調査が実施されることとなりました。

青森市教育委員会では、平成9年度に市内岩渡に所在する熊沢遺跡の発掘調査を実施し、翌平成10年度、平成11年度と、市内諏訪沢に所在する稲山遺跡の発掘調査を実施しています。これまでの調査では、竪穴式住居跡12軒、土坑515基、埋設土器遺構34基、遺物集中ブロック2カ所、石棺墓3基、配石遺構5基等の遺構を検出し、また、段ボール箱で1,030箱の遺物が出土しています。引き続き今年度も日本道路公団と地方協力を行う青森市都市政策部との委託を受け5月22日から10月31日までの期間に渡り、発掘調査を実施しました。

稲山遺跡の概要

本遺跡は、青森市の東部、青森市大字諏訪沢字山辺に所在しています。本遺跡は、青森市東部の山地に立地しており、砥取山から北に伸びる小山地の末端部に相当する稲山の標高10～40mの南丘陵に位置しています。本遺跡から陸奥湾へは、直線距離で3km、東を流れる野内川へは、直線距離で2kmの距離となっています。

青森市には多くの遺跡があり、その数は、平成13年3月末で300個所にのぼります。本遺跡の付近にも様々な遺跡があります。付近の縄文時代の遺跡には、野内川以北に縄文時代後期の石棺墓が見つかった山野峠遺跡や縄文時代晩期の貝塚である大浦貝塚、同じく晩期の竪穴住居が見つかった長森遺跡など著名な遺跡があります。

また、遺跡南西側には戸山団地造成に先立つ発掘調査で、縄文時代早期、中～晩期、弥生、平安時代の遺物のほか、縄文、平安時代の住居跡等多数の遺構が見つかった、蛭沢遺跡があります。近年では、青森県新総合運動公園建設事業に伴い宮田地区において、上野尻、山下、米山(2)、玉水(2)遺跡の発掘調査がおこなわれています。上野尻遺跡では、掘立柱建物跡群が確認され、遺跡の一部が保存されることとなりました。

これまでの調査では、本遺跡が縄文時代前期と後期を主体とする遺跡であること、調査区中央部の台地を中心に遺構・遺物が密集していること、遺構の種類には、遺物集中ブロック(捨て場)や竪穴式住居跡、土坑など各種があること。遺跡主体部である台地上で各種の遺構は種類ごとにまとまった分布を呈していることなどがわかりました。



周辺の遺跡

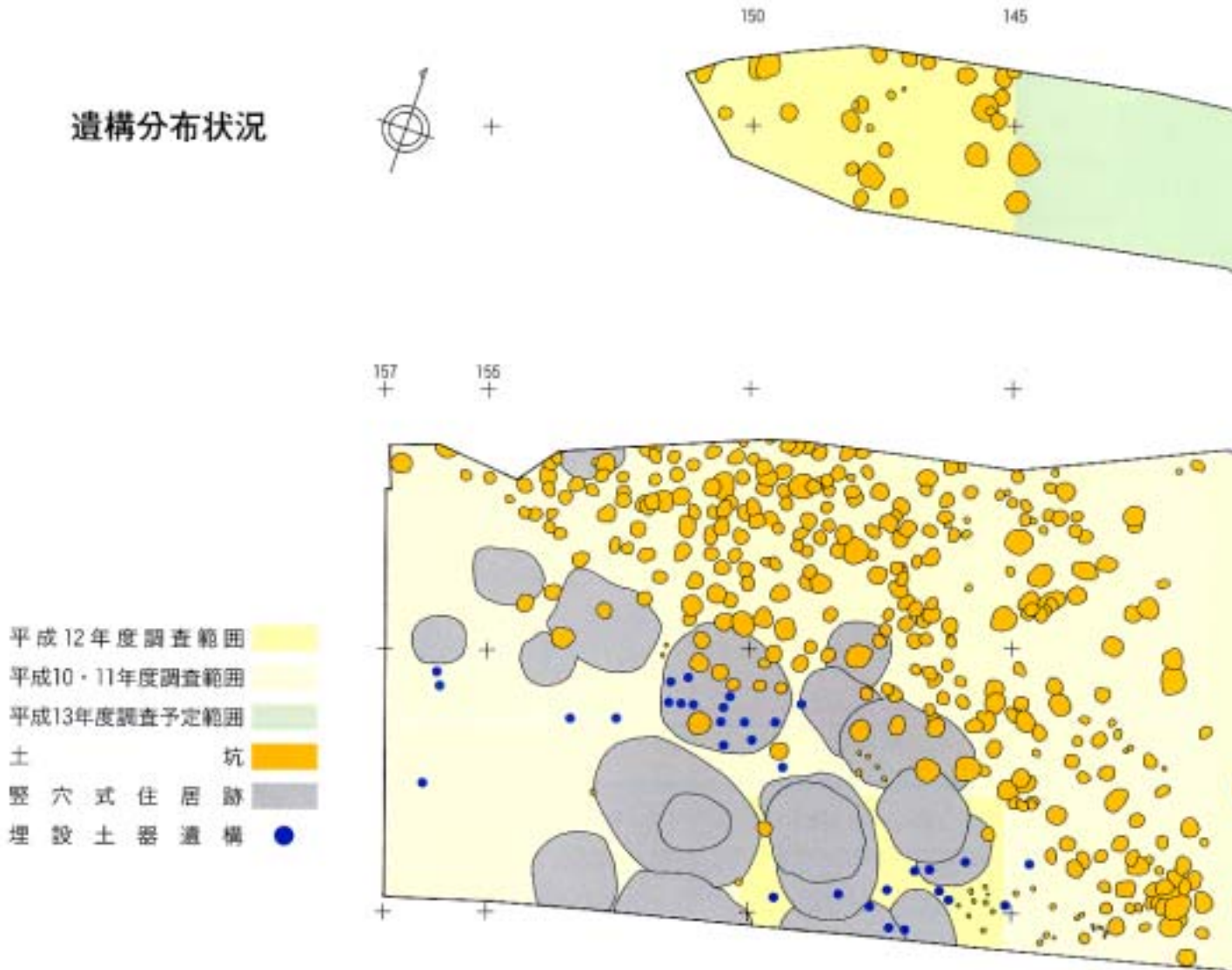
今年度の調査から

本遺跡の調査対象範囲は、東西に約600mにわたる細長い形です。調査区の地形は、南に下る丘陵の斜面ですが、中央部は一部突き出した台地となっています。中央部を挟んで西側はなだらかな丘陵、東側は比較的標高の低いほぼ平坦な地形となっています。今年度は、調査区の東側、特に台地の東側斜面を主体に面積5,452m²の調査を実施しました。

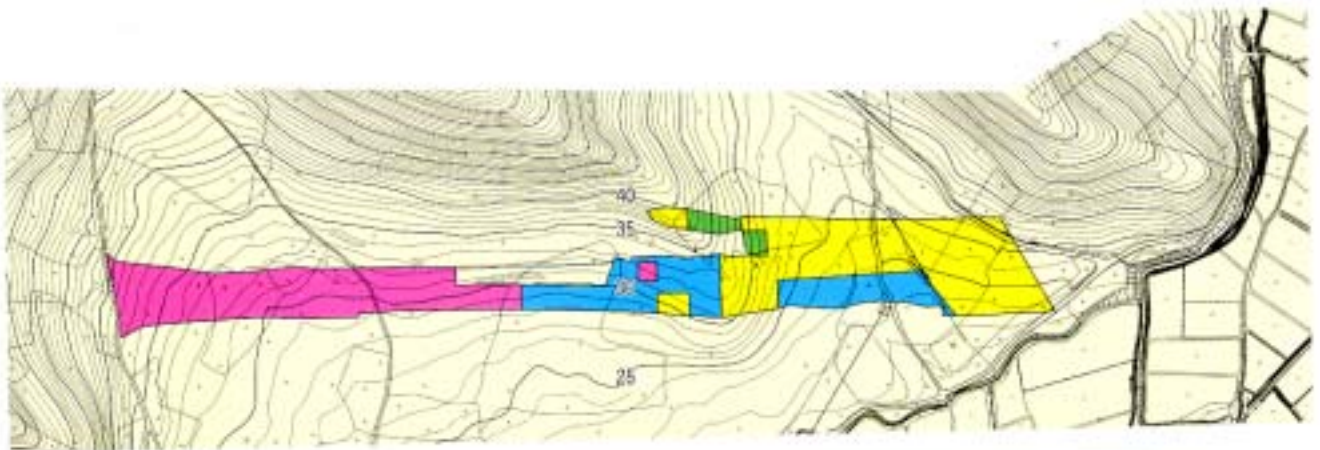
今年度見つかった遺構及び遺構数は、縄文時代前期の竪穴式住居跡12軒、埋設土器遺構19基、縄文時代後期の配石遺構6基です。また、縄文時代前期と後期の土坑(小ピット含む)646基のほか、縄文時代前期と後期の遺物集中ブロックが見つっています。今年度見つかった遺物の量は、段ボール箱で550箱です。

台地の東側斜面では、中部から上部において配石遺構や密集する土坑が見つっています。また斜面下部では竪穴式住居跡が見つっています。これら遺構の分布の状況は、これまで調査をおこなってきた台地西側と同様で、台地全体における各種遺構の分布状況は、台地中央の頂部に、石棺墓や配石遺構などが作られ、その外側に中央部を取り囲むように密集して多数の土坑が作られています。さらに密集する土坑の外側で縄文時代前期の竪穴式住居跡や埋設土器遺構が作られています。

遺構分布状況

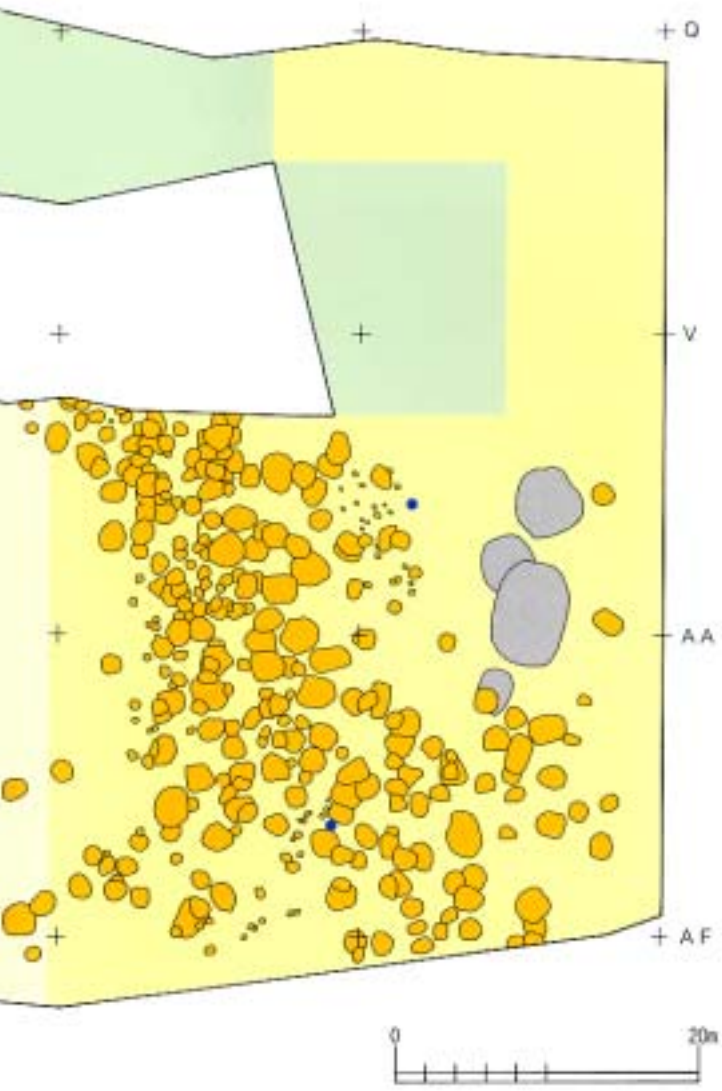


調査対象範囲図



- 平成10年度調査対象範囲
- 平成11年度調査対象範囲
- 平成12年度調査対象範囲
- 平成13年度調査予定範囲

140



調査区東側作業風景



東側斜面作業風景

縄文時代前期の様相

竪穴式住居跡

本遺跡で見ついている竪穴式住居跡はすべて縄文時代前期のものです。

今年度の調査で検出した12軒の住居跡は台地西側で8軒、東側で4軒見つっていますが、いずれも台地斜面の下側で土坑を取り囲むように位置しています。

竪穴式住居跡は、長軸7～10m程で規模の大きいものと長軸4～6m程で規模の小さいものがあります。

床面には、規模の大きいものでは3本2列、2本2列、小さいものでは2本1列の主柱穴と思われるピットが見られます。床面中央には浅いくぼみが見られます。本遺跡の住居跡からは、火を焚いた痕跡が残っている、明確な炉を有するものは見つかっていませんが、他の遺跡の類例から考えると、本遺跡の床面中央のピットについては炉の可能性も考えられます。

また、床面から楕円形、隅丸長方形で、底面の断面形が波状を呈するピットが見つかることがあります。床面中央と壁際の上に位置しています。波打った底面には、他から運んだと考えられる炭化物が見られるものや、ピットを作るにあたって、焼土等の土を盛って波打つ底面を作り出していると思われるものが見られました。

住居跡の堆積土からは、散発的に土器片が見ついているものが大半ですが、住居が使われなくなった後の窪地に多数の土器を廃棄しているものが1軒見つかり、約70個体に及ぶ復元可能な土器が見つかりました。

土 坑

台地の東斜面を主体に646基の土坑が見つかりました。土坑には、縄文時代前期と後期のものがあります。縄文時代前期の土坑は、後期に比べると数が少なく全体の1、2割程度と思われます。

縄文時代前期の土坑の形には、違いが見られま



小型の住居跡



大型の住居跡



波状を呈するピット



フラスコ状土坑

す。まず、本遺跡全体で多数を占める、断面形がフラスコ状、袋状を呈する土坑です。いずれも、開口部が狭く内部が広がる形のもので、次に、断面形がビーカー形を呈する土坑が見られます。直径が、100～150cmの規模のものと、200cm程で規模の大きいものが見られます。最後に、平面形が隅丸長方形あるいは楕円形を呈する土坑が見られます。これは、これまでの台地西側の調査では見つかっていないものです。底面に小さいピットを持つものと持たないものがあります。平面形の長軸に相当する床面の壁際対のように2カ所見られるものと、さらに底面中央の1カ所を加えて、計3カ所のものがあります。

縄文時代前期のフラスコ状土坑、袋状土坑の中からは、土器片や石器などが散発的に見ついているものが大半です。しかし、なかには完形土器が一個体ないし数個体見つかることもあります。完形土器に伴って、石鏃、石匙等の石器が見つかるものも見られます。今年度の調査では、特に完形土器に伴って、磨製石斧が出土する例が目立ちます。これらは、土坑底面より10～15cm高い位置で見ついています。

これら土坑の用途については、貯蔵穴や墓としての用途が考えられていますが、完形土器と石器が見ついている土坑は、より墓の可能性が高いものと思われます。

埋設土器遺構

埋設土器遺構が19基見ついています。地面に穴を掘り、土器を納めています。子供のお墓と考えられるものです。竪穴式住居跡付近や、縄文時代前期の遺物集中ブロックにおいて多く見ついています。

土器の状況については、二つの土器を用いて、一つの土器の内部にそれより小さい土器をさらに納めた二重の例が目立ちます。内側の土器は、逆さまに納めているものと、立てるように納めているものが見ついています。



ビーカー形の土坑



楕円形を呈する土坑



土器と石器の出土状況



埋設土器遺構

土 器

前期の土器は、台地東側斜面を主体に、徐々に少なくなっていくものの、さらに東の平坦面に広がって見つかっています。

出土状況は、全体に遺構内外で破片の状況で見つかっているものが大半です。しかし、中には個体で見つかっているものもあります。土坑、埋設土器遺構等の遺構内のほか、遺物集中ブロックで見つかっているもの、さらに昨年度と同様に、第22号竪穴式住居廃絶後の窪地からは、約70個体に及ぶ多数の個体が見つかっています。

前期の土器の形は、主にバケツを細長くしたような形をした円筒深鉢形です。やや口の部分が広がりますが細長い筒状の形のもの、口が大きく開くバケツ形のものがあります。また、まれに浅鉢形のものや、底部が台状になっているものが見つかります。土器の大きさは、器高が20～50cm程の中で大中小のおおむね3タイプが見られます。これらの土器は円筒土器と呼ばれています。

土器の表面には、文様が施されており、縄をよりあわせた縄文や、縄を棒に巻き付けた絡条体を用いて文様を施しています。大半の土器の口縁部と胴部では文様が異なります。胴部には、縦走、斜走する縄文を施すもの、絡条体を縦位に回転施文することにより文様を施すものが大半です。口縁部には、回転施文によるものと押圧施文によるものと大きく分かります。

個々の土器に施されている文様を見ると、縄文では、撚り合わせた回数や縄の本数、撚り合わせ方など、様々なバリエーションがあります。また、絡条体にも、条が平行のものや木目状のもの、網目状のものなど様々なものがあります。

これらの前期の土器は、縄文時代前期中葉から末葉にかけての時期のもので、円筒下層b式土器から円筒下層d₁、d₂式土器に相当すると思われます。これまでの調査では、円筒下層d₁式土器が多数ですが、今年度の調査では、第22号竪穴式住居廃絶後の窪地や自然地形を利用した遺物集中ブロックから見つかっている土器など円筒下層b式土器が多数見つかっています。



前期の土器

石 器

前期の石器では、石鏃、石槍、石匙、石篋、半円状扁平打製石器、抉入磨製石器、凹石など見つかっています。

石鏃や石槍は、狩猟に用いられる石器です。

石匙はつまみの付いたナイフと思われます。

半円状扁平打製石器や抉入磨製石器は縄文時代前期、中期の円筒土器に伴って多数見つかる特有のものです。



前期の石器

土製品・石製品

前期の土製品や石製品は、後期と比較すると種類や点数がとても少ないものです。

土製品は、土器片を円形に打ち欠いた、土器片利用土製品が数点見つかっています。土器片利用土製品は、後期では、数百点に達する点数が出土していますが、前期と後期各時期の全体の遺物量と対比しても、10点未満という点数はかなり少ないといえます。

石製品では円形の石の中央にドーナツ状に穴を穿っている有孔石製品が、1点のみ見つかっています。



前期の石器



前期の土製品・石製品

コラム いびつな土坑

本遺跡の調査では土坑をはじめとして多数の地面に穴を掘って作った遺構が見つかっています。これらの多くは、地山であるロームを掘り込んで作られています。しかし、台地の頂部及びその付近や調査区の最も北側などは、地山がロームでは無く、ゴツゴツして堅い角礫となっています。

当時の人々はこのような穴を掘り込むのが非常に困難と思われる地点にも遺構を設けています。しかし、さすがにその作業は困難であったと思われます。通常作られた土坑はおおむね円形、楕円形の形をしており、また底面などもほぼ平坦であるのに対して、角礫が地山となっている地点に設けられた土坑には、円形、楕円形に形作ろうとした意図は感じられるのですが、壁面、底面等が角ばっており、かなりいびつなものという印象を受けます。

本遺跡で土坑等の遺構は、種類ごとにまとまって分布しており、それぞれ設けられる地点が決められていたと考えられます。その中で、このようないびつな形の土坑などは、当時の社会的なきまりの強さがかいまみえるものです。



いびつな土坑

縄文時代後期の様相

遺物集中ブロック（捨て場）

台地の東斜面の大部分は、後期の遺物集中ブロックとなっていました。

遺物集中ブロックでは、暗褐色土を主体とする多量の土のほか、もともとは、地山に眠っていたと思われる角礫や、石器や配石遺構などを作るために遺跡周辺から集めてきたと思われる河原石状の円礫、加えて土器、石器、土製品、石製品などの多量の遺物も見つっています。

今年度の調査で見ついている段ボール箱で550箱の出土遺物のうち、およそ半分に相当する270箱は、後期の遺物集中ブロックから見ついています。

遺物集中ブロックは地表面下10～20cmから始まり、地点により異なるものの、おおむね60～80cmの厚さがあります。後期の遺物集中ブロックのさらに下には前期の遺物集中ブロックがありますが、その間には、上下層と比較して黒色がやや強い層が堆積しています。

個々の遺物や礫等の出土状況は、おおむね散乱したような印象を受けるものですが、中には、3個体の土器が重なっており、意図的に納めたような状況で見ついているものや、後述する配石遺構が見ついています。

遺物集中ブロックは、台地西側でも見つっていますが、東側の状況は、西側と同様のもので、いずれも遺物集中ブロックの見られない台地の頂部を取り囲むように広がっているものと考えられます。

土 坑

今年度の調査で見ついている646基の土坑のうち1～2割程は、前期の土坑と思われませんが、それ以外の大半の土坑は後期の土坑と思われれます。

土坑は台地東斜面上に密集して分布しています。特に斜面上部での密度が濃く、狭い範囲に多数の土坑を作っているため、重複が多く見られます。

また、斜面の下側に向かうにつれやや規模の大



遺物集中ブロック堆積状況



遺物出土状況



遺物出土状況



土坑検出状況

きい土坑が多くなるようです。

後期の土坑の形は、断面形が袋状、フラスコ状を呈するものと断面形がピーカー形を呈するものに分かれます。また、これらの土坑の底面には、中央部に小さい穴のあるものも多く見られます。

このような土坑の様相は、西側斜面で検出した土坑の状況とおおむね同様です。また、台地頂部の北側においてもやや密度は少なくなりますが後期の土坑を検出しており、台地頂部を取り囲むように分布しています。

これらの土坑の用途については、人骨や食料など明確に結論づける遺物は見つかっていませんが、個々の土坑については、壺形土器や鉢形土器が完形で見つかり、副葬品としての用途を考えさせられるものや、土坑上部に石を立てているようなものや、同じく土坑上部に柱穴状の小さい穴が掘り込まれており、墓標等に関連すると考えられるのではないと思われるものなど、墓としての用途が想定されるものも見つかりました。

配石遺構

配石遺構は6基見つかりました。

その中の1基は、大きな河原石を3m程列状に並べたと思われるもので、台地のおおむね頂部に位置しています。

また、斜面においては後期の遺物集中ブロック中から、河原石を円形ないしコの字状に並べたと思われるものも見つかりました。

その他には、斜面において石を集めている状況のものが見つかりました。

これらの配石遺構の下部からは、関連すると思われる土坑は見つかりません。

これまでの調査で配石遺構は、台地の頂部で見つかりしているものがほとんどでしたが、今年度見つかりしている配石遺構は、列状に石を並べている1基を除いて頂部よりやや下がった斜面の上部から多数見つかりました。



土坑の遺物出土状況



土坑上部の礫



斜面の配石遺構



円形の遺構

土 器

今年度の調査では、段ボール箱で550箱の遺物が見つっていますが、遺物の中で後期の土器が最も多量に見ついています。

後期の土器は、前期と同様に台地東斜面からさらに東の平坦面にかけて見つっていますが、より台地斜面での密度が濃く、平坦面では、前期と比較してもかなり散発的な状況で見ついています。

遺構内及び遺物集中ブロックで破片が散乱したような状況で見ついているものがほとんどですが、まれに遺構内などから完形で出土するものもあります。前期の土器の器形が円筒深鉢形を呈していたのに対し、後期の土器の器形は、深鉢形のほか、浅鉢、鉢、台付鉢、壺など器種が豊富となります。壺形土器には、切断土器も見られます。

全体としては、深鉢形土器が多く、次いで壺形土器が多いようです。

土器の文様は、ヘラ状工具による沈線文を主体に施文するものが多く、渦巻文や入組文を施しています。

沈線文には、隆帯と沈線文を組み合わせた隆沈線や細い沈線が集まった櫛歯状沈線なども見られます。

器面の大部分に網目状撚糸文、縄文を施したものや、無文のものなども見られます。

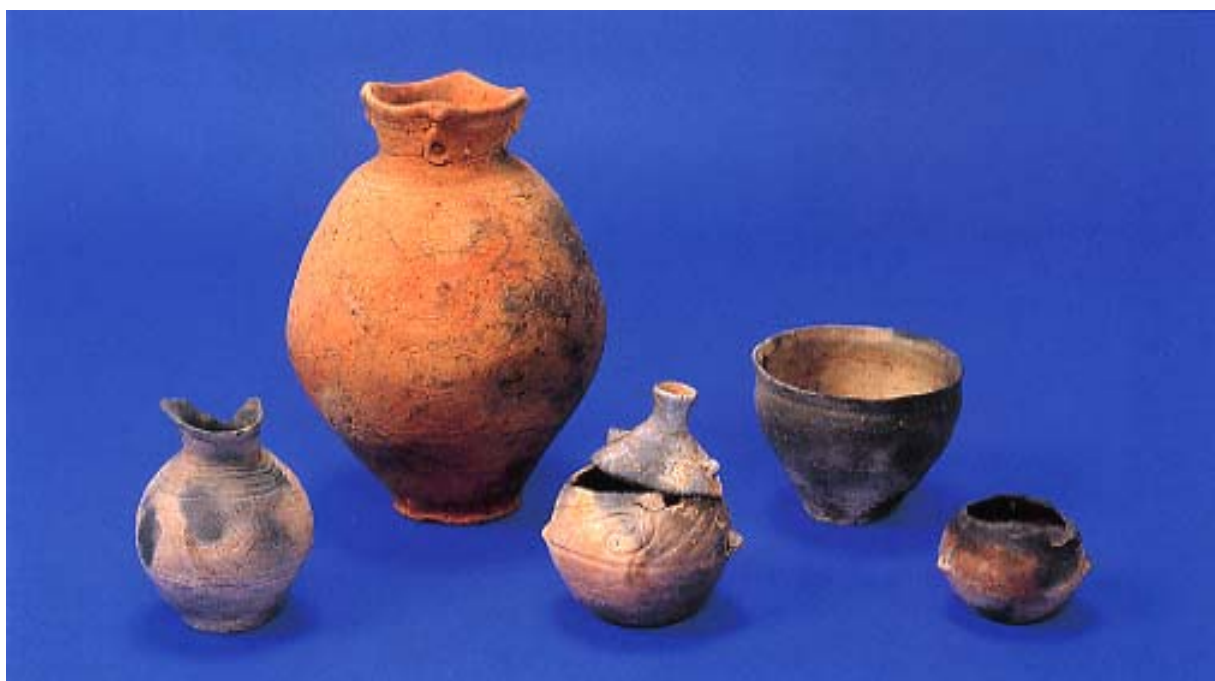
これらの後期の土器は、縄文時代後期初頭の土器や十腰内式土器に相当するものと思われます。



後期の土器の出土状況



切断土器



後期の土器

石 器

縄文時代後期の石器は、石鏃、石錐、石匙、大石平型石筥、石筥、磨製石斧、磨石、凹石、敲石、などが見つかっています。遺構内及び遺物集中ブロックで見つかったものが大半をしめます。

一部を除いて前期の石器と同様の器種が見つっていますが、石鏃、石筥、磨製石斧などでは、あまり前期では見つからない小型のものもみついています。また、大石平型石筥は後期の遺跡で多くみついている石器です。

また、これらの石器のほか、剥片の一部に刃部を作り出している不定形石器も数多くみついています。



後期の石器

土製品・石製品

後期の土製品・石製品は、前期と比べると種類も豊富で個々の点数も飛躍的に多くみついています。

これらの、土製品・石製品は、遺構内出土のものを除くと、ほとんどが遺物集中ブロックからみついています。そのほか斜面下側の平坦面でもより斜面に近い地点で見ついています。

土製品では、土偶、鐙形土製品、ミニチュア土器、耳飾り、有孔土製品、土器片利用土製品などが見ついています。中でも土器片利用土製品は、200点以上が見ついており、圧倒的に多数をしめます。

石製品では、三角形岩版、円形岩版、環状石製品、球状石製品、有孔石製品などが見ついています。

中でも三角形岩版と、円形岩版が100点以上見ついており石製品の多数を占めます。

全体としては、土製品・石製品共に、これまでの調査と同種類のものが見ついており、土器片利用土製品、三角形岩版、円形岩版の出土点数が突出して多い傾向も同様です。



石器の出土状況



後期の土製品



後期の石製品

ま と め

稲山遺跡は、青森市の東部、諏訪沢に所在し、青森市東部に広がる山地の末端部に相当する稲山の南丘陵、標高10～40mに位置しています。縄文時代前期後半と後期前半の時期を主体とする遺跡です。

今年度当委員会では、調査区中央部の台地東側斜面を主体に面積5,452㎡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、竪穴式住居跡、土坑、埋設土器遺構、配石遺構等多数の遺構と、段ボール箱で550箱の多量の遺物が見つかりました。遺構・遺物は、前期、後期両時期共に台地を中心として見つっています。

縄文時代前期では、様々な形態の土坑が点在する状況で見つっています。隅丸長方形を呈する土坑は、これまでの調査では見つっていないものでした。また、底面近くで完形土器と磨製石斧等の石器が共伴する例が見られました。また、斜面下部では、竪穴式住居跡や埋設土器遺構が見つっています。さらに、遺物集中ブロックは、昨年度と同様に住居廃絶後の窪地を利用したものと、台地の斜面地形を利用したと思われるものが新たに見つっています。

縄文時代後期では、遺物集中ブロックが台地東斜面のほぼ全体に広がり、多量の後期の遺物が見つっています。また、袋状、フラスコ状土坑を主体とする多数の土坑が密集した状況で見つっています。配石遺構は、台地頂部で列状のものが1基、斜面中位で5基の計6基が見つっています。これまでの調査で配石遺構は台地の頂部に分布していましたが、今年度の調査ではやや斜面上に位置するものも見つっています。

これまでの台地西側の調査結果と合わせ、台地頂部に後期の配石遺構、石棺墓、その周囲を取り囲むように前期並びに後期の土坑、さらに外側に前期の住居跡や埋設土器遺構という台地利用の状況が明らかとなりました。また、調査区東端の調査では、流れ込みの様相を呈して、遺物が散発的に見つっており、本遺跡の主体部が中央の台地であることを確認する結果となっています。

発掘調査は、今年度以降も実施する予定です。今後調査を予定している台地北端部については、これまでの調査でわかった台地上での遺構の分布状況がおおむね引き続いている状況を確認しています。新たに見つっている前期の遺物集中ブロックの状況等、本遺跡の性格がいっそう明らかになるものと考えられます。



作業風景

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962 ^F 三内霊園遺跡調査概報』
”	2	1965 ^F 四ツ石遺跡調査概報』
”	3	1967 ^F 玉清水遺跡調査概報』
”	4	1970 ^F 三内丸山遺跡調査概報』
”	5	1971 ^F 野木和遺跡調査報告書』
”	6	1971 ^F 玉清水 遺跡発掘調査報告書』
”	7	1971 ^F 大浦遺跡調査報告書』
”	8	1973 ^F 孫内遺跡発掘調査報告書』
		1979 ^F 蚩沢遺跡』
		1983 ^F 四戸橋遺跡調査報告書』
青森市の埋蔵文化財		1983 ^F 山野峠遺跡』
”		1985 ^F 長森遺跡発掘調査報告書』
”		1986 ^F 田茂木野遺跡発掘調査報告書』
”		1987 ^F 横内城跡発掘調査報告書』
”		1988 ^F 三内丸山 遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書第16集		1991 ^F 山吹（1）遺跡発掘調査報告書』
”	第17集	1992 ^F 埋蔵文化財出土遺物調査報告書』
”	第18集	1993 ^F 三内丸山（2）遺跡発掘調査概報』
”	第19集	1993 ^F 市内遺跡発掘調査報告書』
”	第20集	1993 ^F 小牧野遺跡発掘調査概報』
”	第21集	1994 ^F 市内遺跡詳細分布調査報告書』
”	第22集	1994 ^F 小三内遺跡発掘調査報告書』
”	第23集	1994 ^F 三内丸山（2）・小三内遺跡発掘調査報告書』
”	第24集	1995 ^F 横内遺跡・横内（2）遺跡発掘調査報告書』
”	第25集	1995 ^F 市内遺跡詳細分布調査報告書』
”	第26集	1995 ^F 桜峯（2）遺跡発掘調査報告書』
”	第27集	1996 ^F 桜峯（1）遺跡発掘調査概報』
”	第28集	1996 ^F 三内丸山（2）遺跡発掘調査報告書』
”	第29集	1996 ^F 市内遺跡詳細分布調査報告書』
”	第30集	1996 ^F 小牧野遺跡発掘調査報告書』
”	第31集	1997 ^F 市内遺跡詳細分布調査報告書』
”	第32集	1997 ^F 桜峯（1）遺跡発掘調査概報』
”	第33集	1997 ^F 新町野遺跡試掘調査報告書』
”	第34集	1997 ^F 葛野（2）遺跡発掘調査報告書』
”	第35集	1997 ^F 小牧野遺跡発掘調査報告書』
”	第36集	1998 ^F 桜峯（1）遺跡発掘調査報告書』
”	第37集	1998 ^F 新町野遺跡発掘調査報告書』
”	第38集	1998 ^F 野木遺跡発掘調査報告書』
”	第39集	1998 ^F 市内遺跡詳細分布調査報告書』
”	第40集	1998 ^F 小牧野遺跡発掘調査報告書』
”	第41集	1998 ^F 野木遺跡発掘調査概報』
”	第42集	1998 ^F 熊沢遺跡発掘調査概報』
”	第43集	1999 ^F 市内遺跡詳細分布調査報告書』
”	第44集	1999 ^F 葛野（2）遺跡発掘調査報告書』
”	第45集	1999 ^F 小牧野遺跡発掘調査報告書』
”	第46集	1999 ^F 野木新町野遺跡発掘調査概報』
”	第47集	1999 ^F 稲山遺跡発掘調査概報』
”	第48集	2000 ^F 熊沢遺跡発掘調査報告書』
”	第49集	2000 ^F 稲山遺跡発掘調査概報』
”	第50集	2000 ^F 小牧野遺跡発掘調査報告書』
”	第51集	2000 ^F 桜峯（1）・雲谷山吹（3）遺跡発掘調査報告書』
”	第52集	2000 ^F 大矢沢野田（1）遺跡調査報告書』
”	第53集	2000 ^F 市内遺跡発掘調査報告書』
”	第54集	2001 ^F 新町野遺跡発掘調査報告書 野木遺跡発掘調査報告書』
”	第55集	2001 ^F 小牧野遺跡発掘調査報告書』
”	第56集	2001 ^F 稲山遺跡発掘調査報告書』
”	第57集	2001 ^F 稲山遺跡発掘調査概報』
”	第58集	2001 ^F 大矢沢野田（1）遺跡発掘調査概報』
”	第59集	2001 ^F 市内遺跡発掘調査報告書』

報告書抄録

ふりがな	いなやまいせきはくつちょうさがいほう												
書名	稲山遺跡発掘調査概報												
副書名													
巻次													
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書												
シリーズ番号	第57集												
編著者名	小野貴之												
編集機関	青森市教育委員会												
所在地	〒030-8555 青森県青森市中央一丁目22-5 TEL 017-734-1111												
発行年月日	西暦 2001年3月31日												
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因					
		市町村	遺跡番号										
いな 稲	やま 山	あお 青 す 諏	もり 森 の 訪	し 市 の 沢	おお 大 の 字	あざ あ や ま べ	02201	045	40° 49 2	140° 47 30	20000522 ~ 20001031	5,452	道路建設（東北縦貫自動車道八戸線建設工事並びに高規格道路建設促進事業）に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物	特記事項						
いな 稲	やま 山	集落跡	縄文	竪穴式住居跡 土坑 埋設土器遺構 配石遺構 遺物集中ブロック			12軒 646基 19基 6基 3	縄石土石 文 土 製 品	器 器 品 品				

青森市埋蔵文化財調査報告書 第57集

稲山遺跡発掘調査概報

発行年月日 平成13年3月31日

発行 青森市教育委員会
〒030-8555 青森市中央一丁目22-5
TEL017-734-1111

印刷 青森オフセット印刷株式会社
〒030-0802 青森市本町二丁目11-16
TEL017-775-1431